

令和6年度カリキュラム評価—『ディプロマポリシー達成自己評価』集計結果

看護基礎教育においては、「第5次指定規則改正」の新カリキュラムが令和4年度の入学生より適用されている。本校では今年度（令和6年度）、新カリキュラムの完成年を迎え、新カリキュラム適用後初めての卒業生を送りだした。新カリキュラムの運用にあたり、本校の教育組織目標では「カリキュラムマネジメント」をkeywordの1つとしており、ディプロマポリシーに掲げる能力が獲得されているがどうかを学生自身が評価し、その結果をカリキュラム改善に役立てることをねらいとして、このたび、卒業を迎える学生らに『ディプロマポリシー達成自己評価』を記載してもらった。

ディプロマポリシー達成自己評価にあたり、ルーブリックの評価基準はレベル4（十分な目標到達）～レベル1（努力を要す）の4段階とし、目標到達水準をレベル3とした。今回、ディプロマポリシー6項目すべてにおいて「3」を上回る結果となった。その中でも、最も高いポイントだったのが「DP1－人間の多様な価値観を尊重し、他者と良好な関係を築くことができる。」であった。反対に最も低いポイントだったのが「DP3－対象の健康問題を明らかにし、科学的根拠に基づいた看護が実践できる」であり、とりわけ『看護過程展開能力』と『看護実践能力』の到達度を低く評価していることが＜2. ディプロマポリシー6項目の構成要素＞のチャートから読み取れた。

※DP…ディプロマポリシーのこと

今回の「ディプロマポリシー達成自己評価」は、卒業時における学修成果を評価するためのルーブリックである。学習の主体である学生自身が、3年間の学修の過程や課題への取り組みなどを全方位的に振り返り、ディプロマポリシーの達成度を評価するものとした。すなわち今回の集計結果は、教員（教授者）側にとっては「学生に何が学ばれたか」が評価されたことになり、教育内容とその配列・順序性を再吟味する指標となるものと認識する。今回の結果を教員間で共有し、成果および課題を明らかにしてよりよいカリキュラムになるよう改善に努めていきたい。

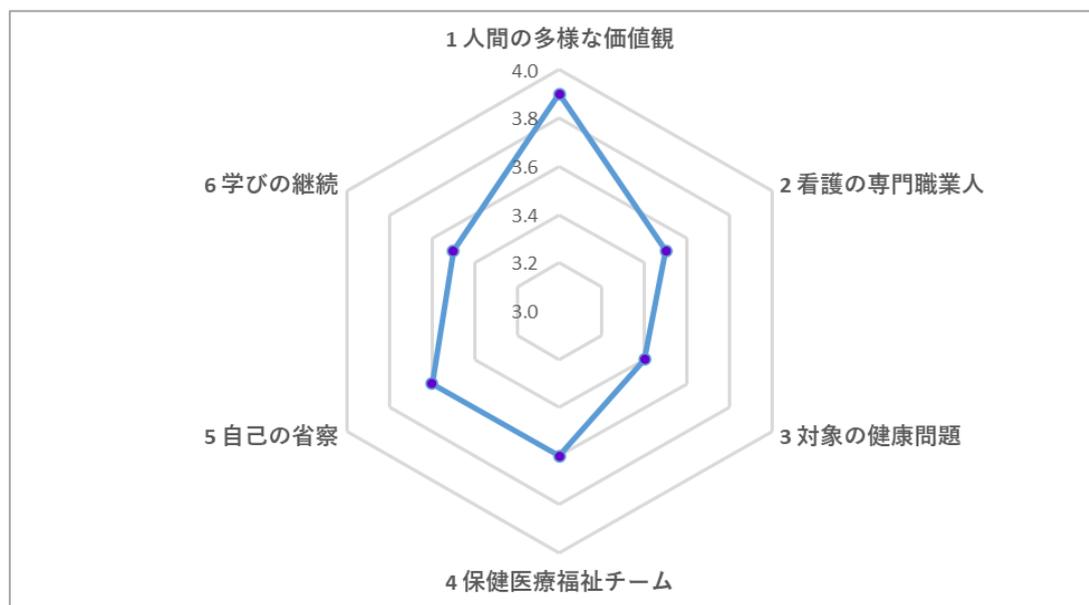
2025・3・21

副学校長 渡會睦美

❖酒田市立酒田看護専門学校のディプロマポリシー（卒業認定・専門士授与に関する方針）❖

1. 人間の多様な価値観を尊重し、他者と良好な人間関係を築くことができる。
2. 看護の専門職業人としての責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護が実践できる。
3. 対象の健康課題を明らかにし、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。
4. 保健・医療・福祉チームにおける看護の機能と役割を理解し、多職種と連携・協働できる。
5. 自己の省察から課題を明らかにし、根拠に基づいた実行可能な解決策を考えることができる。
6. 看護の専門職業人として、変化する社会やニーズに対応するために学びを継続する姿勢がもてる。

<1. ディプロマポリシー6項目の傾向>



<2. ディプロマポリシー6項目の構成項目から見た傾向>

各ディプロマポリシー（DP）を構成する要素は下記のように表現する

DP 1… 1-①価値観の尊重と自己理解・ 1-②他者との関係構築

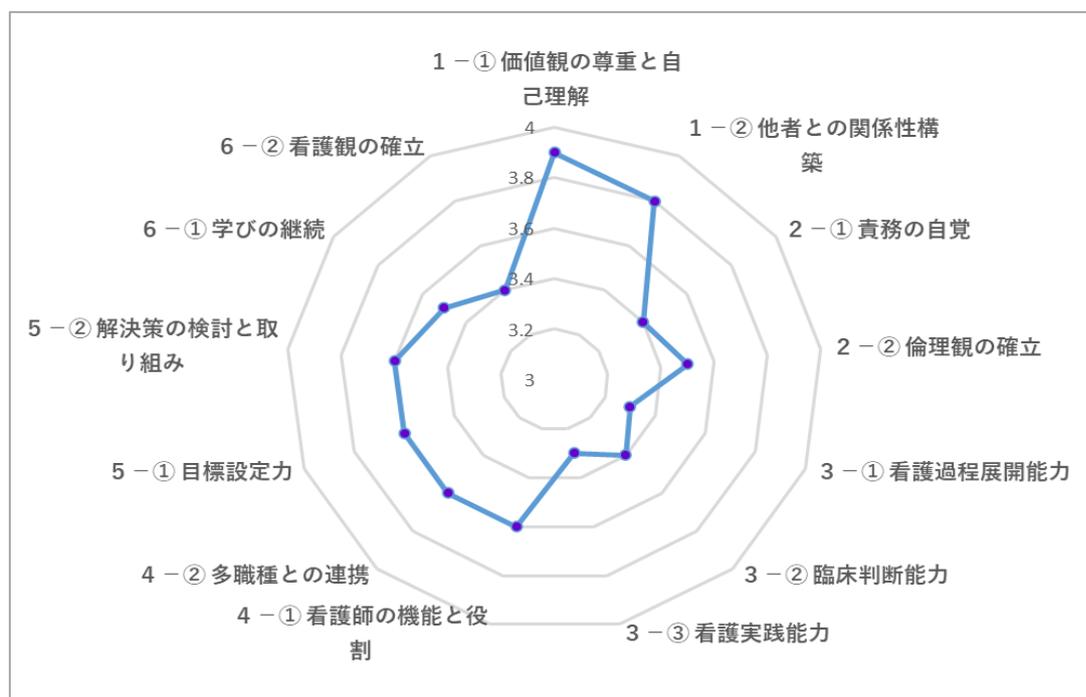
DP 2… 2-①責務の自覚・ 2-②倫理観の確立

DP 3… 3-①看護過程展開能力・ 3-②臨床判断能力・ 3-③看護実践能力

DP 4… 4-①看護師の機能と役割・ 4-②多職種との連携

DP 5… 5-①目標設定能力・ 5-②解決策の検討と取り組み

DP 6… 6-①学びの継続・ 6-②看護観の確立



■学生が記載した「自己評価点数の理由・根拠」を一部ご紹介しますー



DP1について…

- ・グループワークや実習を通して、自分の考えや意見に対しグループメンバーや指導者さん、担当教員からの意見からいろんな視点で自己の傾向を知ることができた。共感することを意識して、コミュニケーションをとることができたから。
- ・実習や学校生活を通して、様々な人とのコミュニケーションを通して他者との考えの違いや価値観を学び、自身の考えだけで物事を進めるのではなく、相手も含めた行動やコミュニケーションが行えるようになったのではないかと考えるから。

DP2について…

- ・特に倫理を学んだときに自分の視点だけではなく多角的な視点から物事を考えることができた。多角的な視点は実習だけでなく普段の生活でも役に立ったから。
- ・学校での講義や実習を通し、看護の知識・技術を身につけそのうえで常に対象の立場を考え関わるることができたから。

DP3について…

- ・実習や演習を通して、対象の状態や言動などの気づきから、健康課題やその課題に必要な援助を考えることができたと思う。そして、対象の今後の生活や場所を考慮し、援助の必要性を踏まえて行うことを意識したから。また、対象の反応など、援助後の結果から評価・修正を行い、次の看護へつなげることができたから。

DP4について…

- ・チームの一員である意識・自覚を持ちながら行動することができたから。また、多職種への情報提供を行いながら、お互いに尊重し合う関係が築けたと思うから。
- ・領域別実習では、受け持ち患者さんのリハビリの状況や治療内容、社会資源、要介護認定の有無といった情報を用いて看護を展開することで対象の個別性を尊重した看護を行うことができたから。また、統合実習では、実際に看護チームの一員として看護に参加し、積極的に相談や提案をすることができたから。

DP5について…

- ・自分を客観的に俯瞰して、意図的に情報を収集し「なぜ、そうなったか」を考えながら、自分のなりたい姿に向かうために、課題を見つけ目標設定ができたから。また、自分の課題・目標を修正しながら実行できる解決策を見出し、達成できるよう取り組み、振り返ることで新たな課題を明らかにできたから。

DP6について…

- ・3年間で看護観がより具体的なものになり、言語化できるようになったと思うので。また看護だけでなく医療全体における社会の変化にも目を向けるようになったため。
- ・医療に対する社会のニーズが在宅にシフトしている中で「なにができるのか」を考えるなど、探究心・向上心を持つことができたから。

